

---

# クロームのリボン

水色ペンキ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

クロームのリボン

### 【Nコード】

N2022F

### 【作者名】

水色ペンキ

### 【あらすじ】

どの町にも郷土史があります。どの郷土史編纂事業でもインタビュールが行われます。かつて録音された無数の肉声のうち、文字に起こされたものって一体何割くらいなのでしょうね。こぼれた声は媒体の劣化とともに、自然とこの世から消えてゆきます。そんな声を<sup>ノイズ</sup>題た、ちよつと短いお（ノイズ）で（ノイズ）。

## （前書き）

フィクションです。

（ノイズ）……からでしたね。そうですよ。若い人には空襲つていうと、そりゃあ原爆とかね、今でも毎年NHKでね、ホラ。あとは東京だとか。田舎は壊すものなんてなかったと思うかもしれませんが、けど、軍都でしたから、旭川は。来ましたよ。来ました。幸い大きな被害はなかったという話ですけど、戦時中のことです。から、どうだか……。師団はそういいましたけどね。私ら何も聞かされない。あれだつてそうですよ。ガダルカナル。小林さんとこのお兄さんなんか、栄町の。あとでもう、そうですね、何年も経ってからです。悔しいって……。そんなものです。時代でした。とにかくみな明日どうなるか今日どうなるか、いいえ、今晚ノイズしたよ、ねえ。東神楽のほう野菜買い出しにね、祖父なんかもリヤカー引いて延々。でもまだこのへんはましでしたよ。あとで聞いたら、東京なんか酷かった。そうなんでしょう？

毎朝工場へ向かう途中に、ライラックの林があったんです。いい香りでした。年中咲いてるわけでもないのに、なぜかそれだけ覚えてるのね。紫色の。感じ入るものがあつたんでしょうか。まだほんの娘でしたけど、先の見えない暮らし、ああ、いやだなあ……。もうああいうのは……。朝方家を出るときにね、店の戸、引き戸ノイズけど、開けるときにね、氷でガツガツ引つ掛かります。冬ですよ。冬の話で。えい、えいってこう押しますけど、なかなか開かない。そうしますとね、思い出しましたね。むかしは朝ご飯を食べて、むかしって昔です、もつと昔、マーチンがね、朝一緒に出てましたから、笑って開けてくれたんですよ。……ハナさん、わたし開けますよ、そんなね。そんなこと思い出して、どうしちゃったんだろうって。私たちも、世の中も、なん（ノイズ）なつてしまっ（ノイズ）って思いましたね。店の中にサンプルって置くでしょう、その中に白黒でね、わたしと妹とマーチンと三人で撮った写真がありまして。戦争

が始まったとき父が（ノイズ）って。祖父は一本気な人で、なにやましいことがあるもんかって喧嘩になったのを覚えてます。でも父が正しかったんでしょうね。時代ですよ。そういうものは置けませんでした。

商売も最初はよかったんです。出征記念なんかで正装して撮りたいてお客さんが一杯いて。でも父が南方にいつてすぐでしたか、祖父がすっぱり閉めました。祖母が嫌な商売だ嫌な商売だって言い出して。いろんなこと（ノイズ）しょうね。多かったですよ。商店街でも昔のように……。祖父がリヤカーを買ってきて、ああ、申し上げましたっけ、ええ、野菜。売るように。あたしは女学校から工場へね。これは仕方ないです。行きたいとか行きたくないじゃありませんから。下宿<sup>ノイズ</sup>振るわなくて。ええ、荷物は皆さん置いていかれますけど、学問どころじゃ。ねえ。

戦後何年も経って、あたしも結婚しまして、写真館は夫が継ぎました。店は建て替えましたが、場所は同じで。名前もね。姓は変えて。ああ、父が帰ってきてから道具を買い直しましてね、やりなおしたんです。祖父は（ノイズ）きましたから、二六年頃まででしたかねえ、引けなくなるまで毎朝農家まで行っていました。店をもう一度やるのには反対だったみたいです、あたしにはそんなこと言いませんでしたけど。それでね、もうあたしも、ふふ、いい年になりましたけど、五〇年頃ですか、昭和の。ふと店に外人さんが見えましてね。藤堂ハナさんは（ノイズ）と仰るんです。あたし英語わかりませんから、息子が応対したんですけども、ええ旧姓です、今は中本ですけどいいいましたら、わたくしマーチンの知り合いですと（ノイズ）してね。びっくりしました。だってねえ、もう三十五年ですよ。ほら。思わないじゃありませんか。そんな昔の話が。今さら。

……お元気でよかったですと仰るんですが、あたしその外人さんを見ませんから、どういった（ノイズ）と尋ねましたらね、ご戦友だそうです。マーチンはどうしてますかと聞きましたら、フィリ

ピンで亡くなったと。戦中にです。驚きました。アメリカに帰ったはずだったんですよ、ハワイよりずっと（ノイズ）ねえ、あつちに（ノイズ）と、思ってたのに、よりによっ（ノイズ）……。その方も戦地でマーチンと話して、日本にこういう、あたしみたいな、知り合いがいると聞かされて、マーチンが亡くなってから、機会があればこちらに寄ってみようと三十年、そんな、ことらしくつて、ね……。生きてると思っ（ノイズ）たのに。だってねえ（ノイズ）争、あとからですけど、聞けば聞くほど、アメリカさんが。父の前では言えませんですけど。だからきつとって。……わからないものです。

その方が見えたときに、あたしね、宝物を見せたんです。マーチンがまだうちにいたところに、あたし（ノイズ）オルゴール。金属供出？ ありましたよ。でもね、娘でしたもん。それに、マーチンからもらったオルゴールをね、鉄砲の弾になって。そりゃあ。誰に向かって撃つの。でしょう。

でも壊れてたんです。ゼンマ（ノイズ）ろが痛んでまして。でもオルゴールの思い出を話したら、その方がこれは直せますよ、これの会社を知ってますからお預かりしますってご親切に。それでアメリカに持って帰られて、何ヶ月後かにまた送ってきたんです。白黒の写<sup>ノイズ</sup>えてありました。若いお二人がね、マーチンと、その方が飛行機の前で笑ってた。お手紙ではこんな（ノイズ）かなくて申し訳ありませんとおっしゃってましたけど、よかったんですよ。爆撃機の前<sup>ノイズ</sup>の写真でもね。もうそういう時代じゃありませんから。それでね、戦時中隠してたあの写真とそれ（ノイズ）アルバムに入れ、ああ、恒一、持ってきてくれる？ アルバム。戸棚の一番下のあそこ。そう。お願い。すいませんね、用意しておけばよかったわ。戦争はもういやですよ。もうあんなこと。あたしが生きて（ノイズ）た起こらないと願いたいものですけど。金輪際。あなた、記者さん？ お若い方がどう思ってたのかわかりませんが、戦前のね、日本も、アメリカも、憎しみあつ（ノイズ）わけじゃない

んですよ。今と同じですよ。国も人も。あたしは爆撃とか、恨んで  
ませんけど、何が怖いって、みんな変わってしまうことです。いざ  
(ノイズ)となると、それまでお隣さんみたいに付き合っていた人  
たちが、どんな(ノイズ)もやるようになる。怖いのはそこですよ。  
気をつけてください。悪い国とよい国が戦ってとか、そんなウソを  
ね……。今そういうのが……。そういうお話にすると、わけがわか  
らなくなりますから。だからマーチ(ノイズ)、まあ、フィリピン  
から旭川へってことはないでしょうけども、もしもですよ、マーチ  
ンが、お友達にあたしのことを話しながらね、この上に飛んでき  
て、仕方なく爆弾を落としていったとしても……ないでしょうけど  
……不思議ではないと、思っています。そういうこと(ノイズ)を  
そらすと、個人が悪いみたいな、ねえ。違いますよ。

ああ、写真が来ました。ええとね、ええと……ほら、ここです。  
これが学生時代。あたしこんなに子どもだったかしらね。ふふ。こ  
っちがフィリピ(ノイズ)なに立派になってねえ。ひよろひよるだ  
ったのに。二十歳そこそこでしょうね。兄みたいに思ってたわ。こ  
んな。若いわねえ。ほんとに。若いわ……。

あら、恒一、それも持ってきてくれたの。あら。

回る？ まだ使かしら。<sup>ノイズ</sup>ああ、回るわね……。

ご存じかしら。あたし歌詞ね、まだ覚えてるんですよ。この年で、  
はずかしいわね。

……。

I dream of Jeanie with the li  
ght brown hair,  
Born like a vapor on the swe  
et summer air;  
I see her tripping where the  
bright streams play,  
Happy as the daisies that dan

ce on her way .  
Many were the wild notes her  
merry voice would pour ,  
Many were the blithe birds th  
at warbled them o'er :  
I dreamed of Jeanie with the li  
ght brown hair ,  
Floating , like a vapor , on th  
e soft summer air . . . .

綺麗でしょう。この音だけ（ノイズ）五十年前も変わら（ノイズ）  
ね（ノイズ）あた（ノイズ）  
……（ノイズ）こ（ノイズ）

1993年採録 郷土史資料（録音不良のため不採用）資No .  
1822

中本ハナさん（S3年生、女性 テープ#2）  
2008年保期満了により廃棄。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2022f/>

---

クロームのリボン

2010年10月28日04時34分発行